

< もくじ >	
1. 今年度連続講座第4回の受講申し込み受付中です	1
2. 研究会からのお知らせ	1
3. 研究会の概要報告	2

1. 今年度連続講座第4回の受講申し込み受付中です

第4回講座の概要をお知らせいたします。受講のお申し込みをお待ちしております。

◆第4回講座は、2015年12月19日(土)開催です。◆

講演テーマ：「老妻介護と在宅看取り ～個人的体験から」

講師：沖藤 典子(作家、当学会理事)

(講演要旨)

夫は、閉塞性動脈硬化症で、左足を甲のあたりから切断しました。長年の大量飲酒と健康過信と無知が原因です。その病名にたどりつくまでには、地域の医師の誤診やその間のネット詐欺事件など、振り回されましたが、「病気にしたのは妻のせい」とするバッシングやハラスメントにも苦しめられました。

大学病院、療養型病院など1年半以上の入院の末退院しました。要介護認定は「3」で、上限ギリギリまで介護サービスを使い、夫は人間が戻ってきたかのように回復し、元気になりました。しかし、福祉用具の落とし穴がありました。在宅生活22日で、救急車を呼び、心肺蘇生術、人工呼吸器をつけましたが、この是非についても考えたいと思います。

※全6回のテーマ&講師については既にお送りしましたチラシかホームページをご参照ください。

1) 場 所 : 東京銀座・資生堂 **8Fホール** (今回のみ通常の9Fから変更です)

2) 開催要領 : 各回とも、14時~16時の開催。募集人数は最大45名。

各回の参加費は、会員2500円、非会員3000円。会場にてお支払いください。

※お申し込みは、①氏名、②参加の講座、③連絡先を明記し、eメール、FAXで事務局まで。

※今後とも各回ごとにJAAS Newsなどで随時お知らせいたしますが、ご家族やご友人などにもお声掛けをお願いいたします。多数の方のご参加をお待ちしております。(事務局担当 鈴木)

2. 研究会からのお知らせ

(1) 第27回「シニア社会のリテラシー」研究会開催のお知らせ

1) 日 時 : 2015年11月26日(木) 15:00~18:00

2) 場 所 : 早稲田大学国際会議場4階第6共同研究室

3) テーマ : 全掲載原稿を集約し、構成・編集について意見交換と確認を行なう。

4) 参加費 : 300円

(島村記)

(2) 第25回「災害と地域社会」研究会開催のお知らせ

1) 日 時 : 2015年12月2日(水) 18:30~20:30

2) 場 所 : 早稲田大学戸山キャンパス 33号館16階第10会議室

3) 報告者 : 沼田真一(早稲田大学社会科学研究所大学院博士後期課程)

- 4) タイトル:「ナラティブアプローチを通じた田野畑村の研究(1)－震災復興過程における村民と支援者がそれぞれに描く田野畑村の全体像－」
 - 5) 参加費:500円(学生は無料。ただし社会人は除く)
- ※お問い合わせ、参加申込は事務局・福原 (fukuhara@jaas.jp) 迄お寄せ下さい

(3) 第26回「災害と地域社会」研究会開催のお知らせ

- 1) 日 時:2015年12月16日(水) 18:30~20:30
 - 2) 場 所:早稲田大学戸山キャンパス 39号館5階第5会議室
 - 3) 報告者:沼田真一(早稲田大学社会科学研究所大学院博士後期課程)
 - 4) タイトル:「ナラティブアプローチを通じた田野畑村の研究(2)－震災復興過程における中学生が映画作りを通して描く個人と村の葛藤－」
 - 5) 参加費:500円(学生は無料。ただし社会人は除く)
- ※お問い合わせ、参加申込は事務局・福原 (fukuhara@jaas.jp) 迄お寄せ下さい

(4) 第91回「社会保障研究会」開催のお知らせ

- 1) 日 時:2015年12月2日(水) 18:00~20:00
 - 2) 報告者:池田 心豪(独立行政法人労働政策研究・研修機構 副主任研究員)
 - 3) テーマ:「これからの仕事と介護の両立支援 - 育児・介護休業法改正とその先の課題 -」
 - 4) 会 場:労働者協同組合 会議室
東池袋1-44-3 池袋ISPタマビル 8階
- ※ご質問がございましたら、佐藤まで。090-4436-6853 fujiko-s@jeans.ocn.ne.jp

3. 各研究会の概要報告

(1) 第21回「シニアのICT活用」研究会の報告

- 1) 日 時:2015年10月13日 17:30~19:30
- 2) 報告者:長田 攻一氏(シニア社会学会理事・元早稲田大学教授)
- 3) タイトル:「コミュニケーションとメタコミュニケーション」
- 4) 場 所:ダイヤ高齢社会研究財団 会議室

今回は、コミュニケーションを専門領域とされる社会学者の長田さんにお話をさせていただきました。普段は改めて考えることの少ないコミュニケーションについて、コミュニケーションには“メディアとメッセージ”という要素があること、そのメッセージには言語的メッセージと非言語的メッセージ(表情や身振りなど身体を通じて伝えられる)があるとお話が進みました。

また、コミュニケーションには「いまここで起きていることをお互いに了解しあう過程である」メタコミュニケーションが伴うこと、しかしICTメディアを用いたコミュニケーションではメタコミュニケーションを巡る問題が存在するという事、高齢者のICTを用いたコミュニケーションでは、「感情」の共有が重要となるというお話など、参加者にとって大変参考になるお話を伺いました。

※次回以降の研究会開催は、調整中であり、決まり次第あらためてお知らせします。(森 記)

(2) 第26回「シニア社会のリテラシー」研究会の報告

- 1) 日 時:2015年10月22日(木) 15:00~18:00
- 2) 場 所:早稲田大学国際会議場4階第6共同研究室
- 3) テーマ:①3名の執筆者からの発表と意見交換

3名(駒宮淳子さん、杉山由美子さん、福元 公子さん)の方から、各々執筆原稿の内容等について発表があり、意見交換を行なった。

- ②都市コミュニティについて意見交換

都市と地方の限界集落の違いについて意見交換を行なった。(島村 記)

(3) 第90回「社会保障」研究会の報告

- 1) 日時：2015年10月28日(水) 18:00~20:00
- 2) 場所：日本労働者協同組合会議室(豊島区東池袋1-44-3 池袋ISPタマビル 8階)
- 3) 講師：寺西知也(株式会社wiwiv 社会福祉士)
- 4) テーマ：企業における仕事と介護の両立に関する実態

現在、働きながら介護をしている人は290万人、うち130万人が男性である。介護を理由に仕事を辞める人は年間10万人に達する。約2割は、20代、30代であり、親だけでなく、祖父母を介護するいわゆる若年層の増加が注目される。40歳以上の人の約8割が、今後5年間に介護をする可能性があると答えている。現在介護中あるいは将来介護の可能性のある人の77.4%が仕事の継続に不安を抱いており、企業にとって仕事と介護の両立策は必須といえる。「仕事と介護の両立」をマネジメントできる力は、「新しいビジネススキル」であり、社員の介護期間を重要な「キャリア形成」の時期として適切な支援やマネジメントを実施する企業は、介護離職を防ぎ、介護不安による生産性の低下を防ぐとともに、優秀な人材を集めることができる。こうした能力をもつ管理職はケアボスと呼ばれるようになるだろう、仕事と介護の両立を可能にするようなマネジメント能力は、今後、管理職にとって大変に重要である。

安倍晋三首相は、経済政策の一環である新三本の矢の一つに介護離職ゼロをあげている。併せて、両立を支えるサービス提供を行う介護職の離職率を低くすることも喫緊の課題ではなからうか。

(袖井孝子 記)

(4) 第25回「災害と地域社会」研究会の報告

- 1) 日 時：2015年10月30日(金) 18:00~20:00
- 2) 場 所：早稲田大学戸山キャンパス39号館6階第7会議室
- 3) 報告者：柄本三代子(東京国際大学準教授)
- 4) タイトル：食の『安全・安心』をめぐる取り組みについて

柄本さんは、現代社会をリスク社会、消費社会という観点からとらえ、最近ではとくに「食のリスク」についての研究を続けており、書籍の出版を準備されています。今回は、東日本大震災の原発災害後の放射能汚染との関わりで「食のリスク」の問題を取り上げ、一般の人びとと専門家の認識の違いに注目して、さまざまな問題提起をされました。たとえば、政府や技術行政の専門家による「安全と安心をセットにして呈示する」メッセージ戦略の問題点、専門家は「科学的判断基準」をかざし、もともと食に絶対安全という前提はないとして「リスクゼロ」を求める素人を批判するが、そのような専門家には「社会的価値に基づく安全の判断基準」が欠如しているといった問題、また、われわれ一般庶民の未来に対して最終的に個人に責任を負わせる現代社会の傾向を挙げ、そこには、貧困や知識に基づく格差から、さまざまな分断が起きていること、しかし分断の事実よりは、分断を生み出す社会的メカニズムに目を向けなければならないという指摘など、大変興味深い報告でした。フロアからもそれぞれの立場からさまざまな質疑応答がありました。

・また、10月28日には、野坂 真(早稲田大学大学院文学研究科社会学コース博士後期課程)さんによる、早稲田大学のプロジェクト研究所「現代社会と危機管理研究所」主催の報告会があり、「岩手県大槌町における東日本大震災前後の災害過程 一津波災害史と地域開発・振興史からの捉え直し」いうタイトルの報告がありました。野坂さんは、同地域の調査を継続して行っており、「災害と地域社会研究会」においても、発足以来、逐次報告していただいておりますので、その報告概要は、2015年度末の研究会報告書に収録させていただく予定です。

・11月14日(土)に行われた、第2回シンポジウム「あれから5年~わたしたちはフクシマを忘れない~」も盛況裡に開催されました。雨の中、ご参加いただいた会員の皆様のご協力に感謝申し上げます。詳しい内容については、次号でご報告させていただきます。(長田 記)

(5) 第2回戦後70年座談会「言いたい・聴きたい・反論したい会」概要報告

10月21日、シニア社会学会事務所にて、第2回袖井会長を囲む座談会「言いたい・聴きたい・反論したい会」が開催された。出席者は12名と前回と同数ながら3名入れ替わり、非会員の論客も参加。19日に中国から帰国されたばかりの袖井会長による「南京虐殺記念館」視察報告から始まった。残酷で悲惨な写真や兵士の談話記録が展示され、戦争が理性を失わせる現実を心に痛めた…。子どもの入場者も数多く、撮影も自由。「許すことはできるが忘れることはできない」という記憶遺産による強烈なプロパガンダ。安倍政権に神経をとがらせ、日中関係を困難なものにする懸念と共に、日本でも太平洋戦争の原因や侵略の実態、戦争責任といった歴史を学校で教え、戦争体験を若い世代に伝えることが戦争の抑止力に欠かせないと指摘された。安倍政権の暴走と背景にある経団連の圧力、米国従属の外交力の弱さ、体制温存の天下り官僚体質、自衛隊が良い就職先と見なされる地域経済の弱さ、声を挙げない庶民等々に対する厳しい現状批判もあった。平和維持は自国だけでは困難。日本は米国に付くしかないという意見と地政学的な見地から米中の動向を睨みながら東南アジア諸国と共存を図れ、永世中立のスイスを目指せというそれぞれの意見が白熱した。が、平和を維持するためには太平洋戦争に至った国内と国際事情を多角的に分析し、戦後どのようにして平和が維持され、現在、何が問題か、将来の日本の立ち位置とあるべき姿を明確にすべきことが確認された。

なお、11月18日に開催された第3回座談会については、次号で報告致します。(安田和紘 記)

一般社団法人シニア社会学会・事務局（月・水・金オープン）

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-15-5 パールビル4階

電話&FAX：(03) 5778-4728

eメール：jaas@circus.ocn.ne.jp URL：<http://www.jaas.jp/>